

auto fashion import

2001
MAY
680YEN

次号6月号は2001年5月14日(月)発売

5



Latin Flavor

香り漂う、ラテンな
ドレスアップにハマるッ!!
[Latin in imp. 2001]

DRESS UP MATCHING GUIDE

VW NEW BEETLE ~Part2~

ROADTEST

PEUGEOT 206/VOLVO V70

PEUGEOT307 DEBUT!



PHOTO / 宇林匡宏
 高ノ原テックインジャパン
 TEL 03-3651-7980

LATEIN FLAVOR



↑ハーフタイプのフロントスポイラー。左右にブレーキターニング用のインテークを配し、実用面でもしっかりと効くエアロになっている



↑センター部の角度調整ができる可変式のルーフスポイラー。視覚上のアクセントにもなるから、アバウトユーザーでなくてもこれは使えるハズ



Punto Abarth

先代のプント・アバートをさらにパフォーマンスアップさせる。フロントが車高調整式となったサスキットや吸排気系の変更で、気持ちのいい走りが実現している。ホイールはN4と呼ばれるタイプで、サイズは7J×16、+30。また7.5J×16のホイールを選べば、280ミリのフレンボ製ブレーキシステムを組み込むこともできる。センター出しのDTMマフラーなどヤンチャなルックスだが、フィアットの末っ子らしい熱い走りを見せつけることも可能。ノヴィテックらしい一面だ。





南ドイツの街、ステッテンに拠点を構えるフィアット&アルファロメオチューナー、ノヴィテック。あの「自動車メーカー」であるルーフ出身のエンジニアを抱え、かなり硬派なチューニングメニューを展開するチューナーだ。シャーマンチューナーなのに、扱う車種はイタリア車。特にフィアットとアルファロメオがそのメイン。というわけでドイツ一辺倒のインプにも、そしてドイツ車フリークでも取っつき易いハズ。今回ノヴィテック・ジャパンが用意してくれたのは、今では先代と変わってしまったフロント・アバルト、日本には正規上陸していないマルチプラ、そして最新作である156の2・5リッターツインターボという3台だ。

まずはフロント・アバルトから見ていこう。このスモールハッチは、アバルトの名が冠されていることからわかる通り、ノーマルにチューニングが施されたモデル。エアロも純正の、というよりもアバルトのものが装着されて販売されたものだ。そのアバルトモデルにノヴィテックが用意したメニューは、フロントスポイラーとリアウイング、そしてヘッドライトスポイラーの3点。ハーフサイズのプロントは、左右にインテークを配したスポーティなタイプ。ルーフには、センター部に可変式のサブウイングを備えたタイプで、ダウンフォースをコントロールできる本格派だ。吸排気系や車高調により走りもアップしている。フィアットの末っ子らしいヤンチャさがアピールされたモデルと言えるだろう。

さてお次はマルチプラ。おそらく海外試乗記くらいでしかインプの誌面に登場しなかったクルマである。3人×2列の6人乗りというモノボックスフォルムで、イタリアではファミリー用からコマース用まで幅広く愛されているクルマだ。そんなマルチプラには、エアロではなくマルチパーパスなキャラクターに合わせたアルミ製のアニマルガードとサイドプロテクトバーが装着される。アルミ製のこのアイテムでグッとアウトドアな雰囲気が出ている。またルーフにはシンプルなおホイールが用意される。スプリングによりローダウンされたスタイルだが、どこか楽しくなってしまうルックスだ。きつとノヴィテックのスタッフが休日釣りにでも行くためのクルマとして作ったのかもしれない。

最後に紹介するのが、日本に上陸したばかりの2・5リッターツインターボ。アルファ伝統のV6、2・5リッターモデルに、ツインターボをビルトインした強心臓セタン。ちなみに最高出力は308馬力と、ノーマルを大きく上回っている。エアロエクステリアとして用意されるのは、控えめなフロントスポイラーとサイドスカート、そしてルーフリアのスポイラーという4点。イタリアンセタンの緻密なラインを損なわないシンプルな造形は、整流的にも視覚的にも効果のあるものだ。車高調でグッと低められた足下の18インチホイールの隙間からは、ポリシエ用のブレーキシステムが顔を覗かせている。やはりコンプリートならではのトータルチューニングということだろう。今回試乗は叶わなかったが、いずれ誌上でレポートしたい。

どのクルマも、本家イタリアの熱い血潮をそのままに、ドイツの精巧な技術で鍛えたパフォーマンスを披露する。ノヴィテック、要チェックだ。

NOVITEC

ゲルマン流ラテン車チューニング 2つの血が生んだ魅力の3台



←キックアップしたDTMマフラーはノヴィテックの定番。ワンボックスにこのルックスはなかなかフアンだ

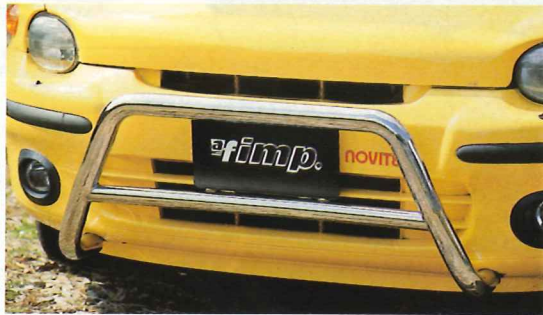


↑ボディサイドにはプロテクトバーが装着されている。何の変哲もないアルミのパイプだが、このマルチプラのキャラクターにマッチしたアイテムなのだ

↑シンプルな造形のルーフスポイラー。ボディの両端から立ち上がるブリッジタイプのデザイン。特徴的なボディデザインに溶け込んでいるので、一見純正か?とも思える

Multipla

ノヴィテックのスタッフが休日に作ったと思われるマルチプラ用のメニュー。アニマルガードやサイドプロテクトバーなど、遊び心が感じられるパーツが用意されている。足回りはローダウンスプリングのみ。ホイールはN6。それにしてもこのクルマ、乗っていると周りの視線をかなり集める。コンプリートでの販売も検討中とか。



←フロントに装着されているのはやはりアルミ製のアニマルガード。ここに追加ランプを入れても面白いかもしれない。アウトドアの雰囲気を漂わせるルックスだ



LATIN

ラテン・フレイバー

FLAVOR



156 2.5V6 Twin Turbo

日本に上陸したばかりの2.5リッターV6ツインターボモデル。ノヴィテックのアルファロメオ用プログラムには、ターボによる過給モデルが多いが、こちらもツインターボによる過給が施されたものだ。ちなみにパワーはノーマルの190馬力から約120馬力アップというから、その走りはかなり期待できそうだ。



↑サイドはノーマルのボディに沿った、実にシンプルな造形。リアに行くにつれて若干ボリュームを増しているのが、ウエストのくびれ具合がより強調されている



↑車高調整式のサスキットに、ポリシエ用のブレーキシテム。そしてホイールはN5と呼ばれる18インチ



↑リアはトランク上に配置されたスポイラーのみで、アンダーは用意されていない。オーソドックスなデザインだが、整流を狙ったタイプようだ。エキゾーストは76φ×2のDTM



↑ルーフエンドにもスポイラーが用意される。こちらも整流効果の高そうなライン。エキステリアのアクセントとしても有効



↑フロントは各ノヴィテックモデルに共通するエアインテークを左右に配したデザイン。ハーフタイプながら、意外とボリューム感がある。センターはやや前方へ張り出している



↑サイドブレーキはアルミ製。ノヴィテックの文字が入る。ペダルはノヴィテック・アルファロメオのダブルネームだ



↑3リッターV6 GTVのパーツ（クランクやコンロッドなど）を流用し、クランクケースやシリンダーヘッドは加工。2つのターボで過給して得られるパワーはなんと308馬力

